

2頁分

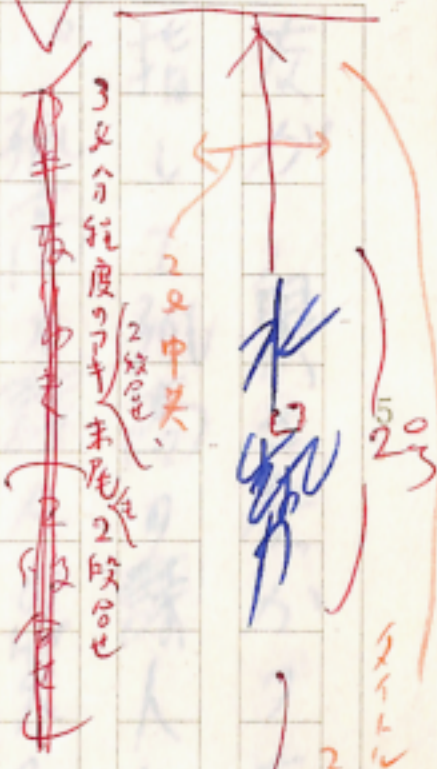
11

講談社原稿用紙

2頁

傾斜した地面の庭であつた。栗の木があつた。青い実のたつたところの頭に行きあつたこともあつた。私は栗の木に淡い感情のやうな感じを覚えた。

吉田一穂先生は、栗の木の見えぬ室に坐つてゐた。山上の哲人を想ひはせ、栗の木は先生が植えたのでせうかと尋ねようと思つた。



523  
タイム  
262(10)

知らん栗木を

15  
20

\* 旧かた便い、中喜便可せす

①